

環境問題への今後の取り組みについて学んで

中部地方 ESD 活動センターが主催された「地域づくりのための気候変動社会教育～学び合いの場①」に参加させていただき、武蔵野大学工学部サステナビリティ学科の白井信夫さんと東京都市大学環境学部環境経営システム学科の佐藤真久さんのお話を拝聴しました。

お二方のお話を通して私は「社会を変える」と「自分が変わる」ということが気候変動の問題解決を目指すうえで重要なのではないかと思いました。気候変動問題という言葉を目にしても、地球の問題なんて私たち一個人が何か行動を起こしたところで無意味なのではないかと思っていました。しかし、気候変動問題は単に環境問題として考えるのではなく、経済や社会と切っても切れない関係にあるということを今回聞いて、地球全体の問題に取り組むにはこの問題を「自分事」として考えていかなくてはいけないと感じました。

そのためにはいきなり地球のことを考えるのではなく、まずは自分の身の回りの地域のことにも目を向けていくということが大切なのではないかと思いました。自分たちのできることから考えて行動に移すことが重要だと思います。

しかし、注意すべきこともあると思います。環境のためになると行って行ったことが、実は、逆に環境を傷付けてしまっていたということが起こりえるのではないかと思いました。このような間違った行動をしないためにも「教育」がとても大切になってくると思います。実際に最近では教育現場でも SDGs や気候変動問題を探究のテーマとする取り組みがふえています。

また、教育現場だけではなく地域でもその地域の問題に取り組むにあたって、地域のリーダーたちで集まって勉強会を行っているそうです。その中で意見が異なったり、自分の意見を理解してもらえないこともあるそうです。そんな時にはしっかりと話し合う場を設けてお互いの意見の違いや自分の意見について話し合いをするそうです。このように問題の解決には人と人とのコミュニケーションがとても大切だとおっしゃっていました。

私も今後はもっと環境について考える機会が増えると思います。人との出会いや関わりを大切にしながら気候変動問題について考え、行動していきたいです。